

【ストレイ・シープたちへ】

卒業論文作成のための簡単な手引き

2022年12月16日

坂口 誠

○はじめに

坂口ゼミでは例年、春学期に全学年対象で「図書館ガイダンス」「『アカデミック・スキルズ』の確認」、通年で「輪読」、2年生には通年で「グループ研究」をしてもらっています¹。これらは何のためにするのでしょうか？

それは卒業論文（卒論）を書くため、です。これに収斂します。「図書館ガイダンス」は文献調査、「『アカデミック・スキルズ』の確認」は研究態度の確立、「輪読」は読む・考える・書くという基本姿勢を身につける、「グループ研究」は3年次から始まる卒論研究のための準備（研究の実践、予行演習）です。

こうした目的で実施しているにもかかわらず、毎年、単なる思いつきのようなテーマを付け焼き刃で設定し、行き詰まり、手遅れになってから相談しに来る（場合によっては相談すらなく自滅する）ケースが多くみられます。ほんとうに嘆かわしいことです。これでは学生・教員とも互いに時間の無駄です。

それでは何のために卒論を書くのでしょうか。この答えは最後にとっておきましょう。ここでは簡単な手引きを載せておきます。『アカデミック・スキルズ』などを通じて既知の内容のはずですが、忘れている人は確認してください。

1. テーマ設定

上記の通り、多くの学生は思いつきでテーマを考えています。それではよい卒論にならないのは自明です。2年生はグループ研究に気をとられ、卒論研究のテーマ設定の準備をほとんどしていないなどというところでもない学生がいますが、それでは困ります。

それではどのようにテーマを設定するか。自身の関心があることはもちろんですが、それだけで決めてしまってよいのでしょうか？よくあるテーマはゲーム産業、TDR・USJなどのテーマパーク、自分の興味のあるサッカーや野球などのスポーツ、自分のアルバイトをしている業界についてで、世の中の多くの大学生が飛びつきます。かなり安易で、坂口自身も聞き飽きています。結局、視野が狭いことから、身の回りのものから探している（そうせざるをえない）ようです。

テーマ設定のためには広い視野を持つことが重要です。見えないものを見ようとする姿勢が大切です。広い視野を得るためには毎日、新聞を読む、テレビのニュースをみるといったように、常に社会の動きに目を配ることが必要です。そのうえで、信頼できそうな文献等にあたり、学術的な文献の読書を重ねるのです。こうした日々の取り組みがなくてはよいテーマを見いだすことはできません。当たり前のことなのですが、多くの学生がこれらのことをおろそかにしていますので、注意してください。

2. 卒論テーマ報告

テーマがある程度浮かんできたら、すでにそれについてどのような研究（先行研究）があるのかを調べます（調べ方は『アカデミック・スキルズ』に書いてありますし、図書館ガイダンスで説明があります）。これはなんのためでしょうか？

先行研究をなぞるだけなら、研究にはなりません。先行研究を踏まえた上で、自身の卒論の研究意義（オリジナリティー）を見いださなくてはなりません。先行研究がないという場合、①君自身のオリジナリティーあふれるテーマであって独創的だから、②重要なテ

テーマだけれども資料やデータがないので研究が不能だから、③やる価値のないテーマだから、の3つのうちのどれかです。①ということは滅多にありません。たいていは②か③ですので、もう一度テーマについて考え直した方がよいです。

卒論テーマ報告では a 卒論テーマ, b そのテーマを選定した理由, c 先行研究, d オリジナリティーがどこにあるのか, e 具体的な研究手法, f 見込まれる結論, g テーマ設定にあたり参考にした文献一覧, を報告します。多くの学生はかなり抽象的, たとえば e については「新聞, 雑誌, 先行研究を利用する」と答えますが, これは当たり前のことであって, 何も言っていないのと同じです。ここで問われているのは, 何をどうするのかという具体的な話です。「『〇〇』という学術雑誌, 『△△』という業界紙にこのテーマについての情報とデータがあるので, それを読み解く。データについては××省が毎年調査しているものを※※して利用する」などといったようなことです。e で具体的なことが示されなければ, GO! とはいえません。卒論テーマ報告も信頼できるデータに基づいて, 自身の研究意義をアピールすること, そのテーマでの研究が実行できることを示すことが必要です。

3. 構成を考える

卒論テーマ報告をクリアしても安心してはいられません。次に報告するのは構成案です。卒論は①序論, ②本論, ③結論, ④参考文献リスト, からなります。ここでは②本論について説明しましょう。

通常, 本論では大きな話から小さな話へ, 抽象的な話から具体的な話へ, 議論の前提となる話から重要度の高い話へ, といった順に項目を階層的に配置(章・節・項に区分)します。レンガを一つずつ積み重ねていって家を建てるようすをイメージしてください。構成は卒論研究の骨格であり, 研究にあたってなにをどう進めてゆくのかの指針になります。

す。当然、研究を進めるにつれて、構成を変えることがあります。変えることは悪いことではありませんが、そうならないようにあらかじめテーマと構成をじっくり考えておくのがよいでしょう。

4. 執筆する

研究の際に注意すべきは、自分が依拠している情報が信頼できるものかどうかをよく検証することです。卒論報告でも「その著者はどういう人?」「何に掲載されたどういう文章?」といった問いをよくしますが、信頼できる情報かどうかを確認するためであり、本であれば奥付などに、書誌情報（著者、タイトル、掲載雑誌名、出版社、出版年月など）とともに著者の紹介が載っている場合がありますから、参考にしてください。多くの学生はインターネット上の情報を安易に利用して卒論を書こうとしますが、それらの情報は真偽不明、出所不明、ゴミのようなものばかりです。そうした信頼できない情報をレンガとしていくら積み重ねていっても、最後にできあがるのは欠陥住宅です。インターネット以外の信頼できる情報を使うことを強く勧めます。とはいえ、本は誰でも作れますので、本になっているからといって信頼できるわけではありません。

執筆を始めるに当たっては②本論→③結論→①序論の順が書きやすいと思います。④は適宜、作成します。書誌情報はあとで調べようとするといへんなので、本文・脚注だけでなく図表も含め、参考にした文献の書誌情報を適宜記載しておきましょう。

多くの学生は4年生の夏休みになってから書けばいいやと思っていますが、4年生の夏休みに書ける保証はどこにもありません。書けるときに書けるところから書く、というのがキモです。Microsoft Wordなどのパソコンのワープロソフトを利用して書く、という前提でお話しします。

最初にテクニカルな話をしておく、章ごとにファイルをつくったほうがよいです。卒論はおよそ4万字の論述になりますが、たとえばあとで第1章の記述や図表を変更する必要がでてきたとします。もしこれを1つのファイルで作っていたとしたら、第2章以降のレイアウト等もこれに影響を受けてしまい、チェックして修正する手間が出てきます。これを章ごとに作っていたら、他章への影響は少なくてすみます。1頁はこの文章のように40字×20行(1000字)で設定すると、文字数をカウントしやすくなりますし、行間も空いて読みやすくなります。そして、各頁には頁番号をふります。

①では卒論テーマ報告の時に求められたように、a 卒論テーマ、b テーマ選定の理由、c 先行研究、d オリジナリティー、e 研究手法について、何頁にもわたってこってり論述します。多くの学生はこれを1~2頁程度しか書きませんが、それでは足りません。5頁以上を目安にこってり書いてください。しっかり準備した卒論テーマなら、書けるはずです。

②についてはすでに説明したとおりです。③は①に対応した結論が示されていない限りなりません。①で提示した問いに③で答えるということです。これも①と同様、5頁以上を論述するようにし、③では残された課題も記すようにしましょう。

卒論の執筆の仕方は『履修要覧』にも記載されているとおりです。執筆する際には文語体で書きます。文章が長くなりがちだと読みにくいので、ひとつひとつの文章を短めにし、接続詞でつないでいくのがよいでしょう。

論拠は適宜、脚注で示します。論拠が示されていないと、卒論で言われていることが正しいかどうかを検証できません。検証できない内容は、君の単なる思い込みです。検証できる形にすることで、客観性を保ちます。本文で記述すると煩雑になって読みにくくなるような説明などは、脚注に移して記載するようにします(この文章にある脚注1のとおりです)。各頁には頁番号をふります。

図表は Microsoft Excel など清書し、各頁に貼り付けますが、文章の真ん中に埋め込むと見づらいです。頁の上ないしは下に配置するとよいでしょう。そういうことは先行研究の論文などを見ればわかると思います。図表には必ず図表番号を記し、出所（出典）も示します。通しで図表番号をふると、あとで新たな図表を挿入する際にたいへんなので、たとえば第 1 章の図表なら、図 1-1、図 2-2、…というように、章ごとに図表番号をふっておくとよいでしょう。

書き上げたらもう一度読み直し、文章やデータなどに誤りがないか、読みにくくないかを確認し、適宜修正します。そして、目次を作ります。構成＝目次ではありません。これまでの多くの学生の卒論では目次の各項目に頁番号がないことが多いです。それではただの構成です。本を作るという気持ちで作製してください。印刷は A4、片面印刷が読みやすいです。

製本について、提出用は簡易製本で結構ですが、1冊は記念にハードカバーで製本した物を作っておいた方がよいです。

○おわりに

こうして卒論が書き上がりましたが、提出期限が定められているのでそれを遵守しないと評価されません。経営学部では優秀な卒論に際し、学部・学科単位で表彰しています。副賞はかなりよいものです。表彰されるような卒論を書きましょう。

それではあらためて、何のために卒論を書くのか。この答えは君たち自身で考えてみてください。

¹ 最近ではコロナ禍のため、「図書館ガイダンス」は実施できず、『『アカデミック・スキルズ』の確認』は各自でおこなってもらっています。